



子ども及び全ての人が幸福に生きていけるまちへ

田中 和美 (公明党)



問 世界では戦争により幼い命が奪われている。このような現実には愕然とする。子どもの未来が希望となつて続いていけるよう、目の前の課題から取り組んでいく思いである。

答 新たな産後ケア事業は以前とどう違うのか。

問 産後ケア事業には宿泊型・デイサービス型・訪問型とあり、本市は訪問型を実施している。以前は住民税課税世帯で1回毎に千円(非課税世帯無料)が、今回から希望する全ての産婦の方が5回まで無料で受けられる。

答 産後ケア事業を遠慮なく利用してもらいたい。宿泊型やデイサービス型支援も導入してはどうか。

問 休息や家事を目的とした利用も可能で、その間、お子さんの世話等も実施している。訪問型以外の支援も調査研究する。子宮頸がんワクチン

- 接種機会を逃した世代の公費負担での接種期限が令和6年度までとなっている。最終の高校1年生を含め、改めて通知すべきと考えるがどうか。
- 無料接種終了時期やワクチンの有効性など、必要な情報を個別に通知していく。
- 男子大学生による男性への本ワクチンの無料接種を求める署名も国に提出された。多くの先進国では男女接種だが、男性への接種助成に対する本市の見解は。
- 男性に対する接種も疾病に対して有効であるが全国的には先進的取組のため、医療機関や学校など、関係機関とその助成実施の可能性について調査していきたい。
- 生命(いのち)の授業
- 代読代筆支援
- 市職員の通年輕装勤務

その他の主な質問



本市の公共施設マネジメント計画・南河原公民館の移転について

村田 清治 (令和研究会)



問 公共施設マネジメント計画では、令和7年度に公民館機能、周辺施設、消防団倉庫と一体で南河原支所への移転を図るとある。南河原支所の現状をみると庁舎は、昭和59年度に建設され、39年が経過している。この間、大規模な改修工事をしていないため、雨漏りが原因とみられる壁紙の剥がれや劣化がみられ、さらに建物内の空調設備が使用できない状況となっているが、南河原公民館は計画どおり移転するのか。

答 本計画では、支所への機能移転を図った上で、南河原公民館については、除却を検討するとしている。しかしながら、様々な事情を勘案すると地域や利用者の意向を踏まえ、総合的に再検討する必要性があると考えており、今後は意見等の集約に努めたい。

問 公共施設マネジメント計画をみると市内の公民館はほとんどが減築、更新となっているが、除却して建て替えるという理解がよいのか。

答 公民館については、方向性として小・中学校の再編に伴って生じる空き施設への移転を優先的に検討することとしている。この場合の減築、更新については、公民館が移転した場合は、これまでの公民館としての利用面積の縮小を検討するものである。なお、空き施設への移転が難しい場合は、現在の施設を建て替え、または、改修する際に延べ床面積の縮小を検討するものである。

問 米の次期作以降の高温障害対策方針について

- 米の次期作以降の高温障害対策方針について
- 市長が考えるフィルムコミッションの役割について

その他の主な質問



子育てしやすい行田市へ

養田 英雄 (日本維新の会)



問 本年4月から、産後ケア事業を開始した理由は何か。

答 身近に援助を頼める方が少なくなり、母親にかかる負担が重くなっているため、産後鬱の発症が懸念されている。本事業は市町村の努力義務であるが、母親の孤立化が危惧されるため、本年4月から開始した。

問 子育て支援については、主にどういった相談内容が多いのか。

答 赤ちゃんの体重増加、母乳やミルクの回数、離乳食の量や回数についての相談が多い。また、指しゃぶりや、兄弟ができたときの赤ちゃん返り、いやいや期への対応などの相談もある。

問 今回提案する小児科オンライン・産婦人科オンラインは、緊急性はそれほど高くないが、専門家へ気軽に相談できる

- ネットリテラシー教育の必要性
- 誘致について
- ストリートピアノの活用

その他の主な質問